

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 11 月 24 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3472501513		
法人名	社会福祉法人成寿会		
事業所名	グループホーム田口		
所在地	広島県東広島市西条町田口東子2729-1 (電話) 082-425-5757		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3472501513&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成23年11月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

小規模の施設だからこそ出来るサービスの内容の充実化に力を入れている。入居者と関わる時間を多く作ることで、不安やストレスを解消したり、色々な行事(外出)を行う事で気分転換につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームの周囲に田畑があり、田植えから刈入れまで四季の移ろいを楽しむことが出来る。建物は、3階建て1階がサービス、2~3階がグループホームになっており、移動はエレベーターで行う。建物全体が採光に恵まれゆったりとした構造になっており、居室は全室個室で明るく落ち着いた雰囲気である。職員は、これまでの生活を大切にその人らしさを持ち続けられるよう様々な季節の行事を取り入れ安心と安らぎのある介護を心掛けている。

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム田口の理念がある。	笑顔と温もりを大切にその人らしさをいつまでも保てる安心とやすらぎの暮らしを提供することを理念とし管理者・職員とも家庭的な介護を心掛けている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流はあまりないが、地域の行事には参加するように努めている。	ホームの敷地内にある交流館でお茶会(立礼)にご近所を案内したり、地域のお祭りには、特別に舞台の見学に指定席をとって貰ったり、お神輿が立ち寄るなど行事を通じて交流している。	交流会館などを活用し、認知症の方の介護方法の講習会するなど、自然に地域の方が訪問されるような機会を作ることにより、地域の頼れる存在になることが期待されます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実施できていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、利用者やサービス内容の報告等を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、市の担当者・民生委員・家族・施設長・管理者・職員が参加し2カ月に1回開催している。ホームから行事案内や報告を行い地域から催事など情報を頂いている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	主に運営推進会議を通して状況報告を行っている。	空室状態の照会、法改正、書類の記載方法、事例報告の相談に載って貰うなど密接に交流している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しての研修に参加。カンファレンスを行い、拘束をしない方法を検討している。	身体拘束はしていないが、徘徊する方が多く、建物の構造上、エレベーターで外部に出られると把握できないので、やむを得ず玄関は施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に関しての研修には参加するよう努めている。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要時には、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約時には、家族に理解していただけるような説明を行っており、不安な事や疑問点を必ず聞くようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者に関しては、日頃から職員が話を聞く時間を作るようにしており、家族に関しても面会時や電話連絡にて意見や要望を伺うように努めている。	ベッドでなく、たたみで眠りたい方の要望を聞いたり、家族が訪問された時には職員が積極的に話しかけ、要望を聞き、出来るだけ対応するようにしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見をアンケートに書いて頂き、月一回開示するようにし、検討する機会がある。	職員からはアンケートなどで意見を求め、風呂場の脱衣場に暖房機器を設置したり、ベランダに新しく屋根を付けるなどの意見を取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	実際に現場に出向き、勤務状況を把握、話を聞く等している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会があれば、進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での交流の機会はある。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	話を傾聴したり、関わる時間を多く作るように努めている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	不安な事や要望・疑問点等、家族の方から、話が出るような雰囲気、環境作りに努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	今、必要な支援を見極めるため、本人や家族の状況を十分に把握するよう努めている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	可能な限り出来る能力を維持していけるよう役割を持っていただき、共に生活していく者同士の関係を築いている。		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	職員と家族が共に本人の支えになれるよう協力している。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	家族の方に協力して頂いたりして、出来る限り支援している。	入所前のご近所の方が面会されると大変喜ばれるので、家族にもお願いして出来るだけ面会回数を増やして貰っている。お名前を呼ぶのに一律に名字でなく、家族やご近所で呼ばれていた名前でお呼びするようにしている。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者それぞれの性格を把握し、トラブルにならないようその都度対応を検討している。必要時には、職員が間に入ることで孤立することがないように配慮している。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	サービス終了後も、必要に応じて、相談や支援を行っている。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者とは話をすることで、本人の思いを汲み取るように努めている。	認知の進んだ方は、日常的にご家族と密接に連絡を取り、生活歴を聞き対応している。また、生活をともにする中で、言葉に出されない要望をくみ取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や、今までに関わりのあった方に、話を聞く等している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者本人の日々の言動や、変化を見逃さないよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人に関わりのある方の意見を多く取り入れ、現状に合った介護計画を作成している。	ケアマネや職員が日常の様子を把握し、家族と相談しながら介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状況を細かく個別記録し、それを元に介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の状況に応じて、柔軟な支援ができるよう、他事業所と協力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一人ひとりが安全で豊かな暮らしを続けていけるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時に、希望を確認し、出来る限り、要望に副えるように支援している。	内科は月2回往診して貰っている。歯科は隣なので、家族の承諾がある方は、職員が同伴し受診している。	

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の気づきや、変化があれば、細かく申し送り、指示を得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医療機関との情報交換を行っている。また、普段からも医療機関との関係作りに努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の意思を一番に考え、出来る限り要望に副えるよう関係者と共に支援している。	終末期の看取りはしていない。夜間の勤務は1名なので、点滴、酸素吸入が常時必要になった時は、訪問看護を依頼するか入院するか家族・医師と話し合っている。	夜間の勤務体制を考慮すると、困難もあるが、終末期について一層の話し合いが期待されます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	外部研修に参加している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を定期的に行っている。推進会議では地域の方と災害時での対応について話しをする機会を設けている。	2～3カ月に1回、訓練をしている。消防署へも夜間を想定した訓練報告をしている。非常階段をチェックしている。スプリンクラーを設置した。実際に夜間訓練すると、非常ベルが鳴って大変だったが、今後とも、訓練方法等検討しながら、継続したい意向である。	現在も災害対策にしっかり取り組んでおられますが、消防署の実地指導回数を増やす、警察、町内会等に案内されればなお一層充実することが期待されます。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	必ず、目線を合わせ、威圧感のない声の大きさを言葉かけを行っている。	人格を尊重した声かけが出来る様ミーティングなどで話し合い職員の意識の向上を図っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り、本人の訴えを傾聴するようし、決定も自己で出来るよう言葉掛けに注意している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースで生活できるよう、職員の言葉かけや対応に配慮している。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り、本人の希望に副えるよう家族にも協力して頂いている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な方には、野菜の皮むきや盛り付け、皿洗い等職員と一緒にやっている。	栄養をみただけでなく、ぼたもち、たこ焼きなど作ることも楽しんだり、職員と一緒に配膳や片づけなどされる方もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量等チェック表をつけており、その日の体調に合わせてメニュー内容・食事形態も変更している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず歯磨き(義歯洗い)を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限り、トイレでの排泄を促している。一人ひとりの排泄パターンにあわせて声かけを行い、支援している。	排泄の記録を参考にこまめなトイレ誘導を心掛けており、日中は全員トイレを使用する。入所後オムツを外せた方もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因を理解するよう努め、個々に応じた対応を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り、利用者本人の希望に副えるよう努めている。	夏場は2日に1回、冬は2~3日に1回は必ず入浴し、その他出来るだけ希望に添うようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者それぞれの身体状況を把握し、必要な方には休息時間を取っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の目的や副作用は、主治医や看護師に聞いたり、処方箋を読む等して職員一人ひとりが把握するよう努めている。服薬内容に変更があった場合は、その後の症状の変化に注意し、細かく主治医・看護師に報告している。		

グループホーム田口

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの生活歴や力を活かした役割等、利用者本人が生き生きとした生活を送れるよう支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り、希望に副えるよう外出の機会を作っているが、季節によっては難しいこともある。	お花見や竹原の竹まつり、蒲刈か安浦、簡保の宿などへ、ドライブに出かける。芋掘り、夏祭り、納涼祭へ参加する。等々纏まった外出のほか、歯科検診や近隣の散歩等支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族の希望があれば、お金を所持したり使えるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者本人から訴えがあった場合は可能な限り、支援している。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように、音、光、温度等には充分配慮し、家庭的な雰囲気を感じてもらえるよう工夫している。	建物中央を通る広々した廊下、大きな窓から十分な採光があり心地よく過ごせる。2階共用の居間には大きな仏壇を安置し、お経本も用意され毎朝読経される方もいる。2・3階とも居間にはソファが置かれゆったり出来、食堂も明るく広々しており壁には、行事の写真などが貼られ親しみのある雰囲気になっている。空調も配慮されしのぎやすい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各居室は個室であり、独りになれる場所がある。食堂の他にリビングがあり、来客があった時には、そこで過ごしていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族の希望を聞きながら、家庭の延長として出来る限り同じ環境で生活できるよう工夫している。	全室、居室の窓をさえぎる物がなく四季の移り変わりを楽しめる。ホーム備えつけの家具のほか馴染みの調度を持ち込み居心地良くしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	広い廊下や手すりの設置等、危険が少なくなるよう工夫してある。		

グループホーム田口

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム田口

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム田口

作成日 平成 23年 11月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	日常的な地域との交流がほとんどない。	地域との交流を深める。	推進会議等で民生委員に相談する。	未定
2	35	避難訓練は定期的に行っているが、消防署を交えての訓練があまり出来ていない。	災害時の避難方法の習得	定期的に消防署と合同で訓練を行っていく。	未定
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。